

畜産ニュース

◎昭和 38 年度の家畜 導入資金の取扱い

県畜産課では、農業近代化資金による本年度の家畜導入取扱いについて、このほど各農林事務所へ通知した。

これによると、①本年度は昭和 37 年度まで実施の導入限度頭数および 1 頭当り融資限度額の規制を行わないことになり、融資額は事業費の 80%以内とするが、営農改善計画の適当でないときには利子補給を行わない場合がある。②またこの資金による家畜導入事業の指導は、従来の取扱い方針によるが、貸付対象家畜に種豚も含めることになっている。

◎食糧事務所で災害対策用 の麦ヌカを斡旋

食糧庁では、長雨等の災害対策用として、さきに畜産局の政府所有ふすまや増産ふすまの供給決定に続いて、精麦工場の麦ヌカの販売斡旋を行なうこととし、このほど関係方面へ通知した。

今回の措置は中間経費を節減して、被災農家に麦ヌカを安く供給しようとするもので、売却する工場側でもこの趣旨に沿って協力することになっている。

斡旋の方法は、災害農家で飼料の不足している希望者が単協を通じて申込み食糧事務所は申込み量によって製麦工場に割当て、一定の価格で単協を通じて販売が行なわれる。販売価格は、市販の流通価格を参考に、製品見本によって食糧事務所、県、県経済連の協議によって工場渡し価格を決定する。

食糧事務所では今後の申込みの状況によって、具体的な斡旋業務を行なうことにしている。

◎岡山県畜産共進会の開催計画

岡山県では、津山市と共催で第 19 回の畜産共進会を津山市の総合畜産津山家畜市場で行なう計画を立てている。

共進会は、10 月 15 日から 3 日間にわたって実施される。

出品家畜は三部門にわかれ、一部肉用種々牛、第二部乳用種々牛、第三部種豚となっており、審査の結果、優秀な家畜には褒賞状が授与され、そのうち最優秀のものには農林大臣賞が授与されるよう申請

する。

◎畜産技術経営診断指導員の技術研修 会開催

岡山県畜産会では、7 月 10 日から 8 月 9 日の期間中に畜産技術経営診断指導員の技術研修会を県の各試験場および酪農大学校を実施する。

これは、農業構造の改善事業が国および県の施策として取り上げられ、推進されることに伴って畜産技術経営診断事業は更に重要性を持つようになって来ている。

従って、これに対処するためには現状の診断技術を一層向上させる必要性があり、酪農、養鶏、養豚、和牛生産、和牛肥育の経営、管理、衛生、飼料等について研修会を開き、診断事業を通じて農家の経営改善をしようとするものである。

畜種別指導員数は次のとおりである。

酪農	55 名
養鶏	29 名
養豚	6 名
和牛生産	19 名
和牛肥育	21 名
計（延）	230 名

◎養豚研修会津山で開催

第 1 回養豚研修会はさる 5 月 30、31 日の 2 日にわたって、県畜産課主催で、津山市の津山家畜市場および県酪農試験場を会場に開かれた。

これには県畜産関係職員をはじめ、県総合畜産、県経済連関係者のほか、県指定種豚場、種めす豚借受農協等の関係者約 100 名が参加し、県および県総合畜産担当者を講師に、第一日は津山家畜市場で食肉生産の今後の課題、県養豚振興計画、豚の改良増殖関係の研修を行ない、二日目は農林省中国種畜牧場の生駒技官ほかの講師から、午前中は同市場で豚の見方、登録について、続いて午後は酪農試験場でランドレース種豚の審査や産仔検定等について実施研修を行なった。

なお県下養豚指導者を対象としての総合的な研修として初めての試みであったが非常に盛会であった。